

## 令和7年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立馬込第三小学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・既習事項や生活経験と結び付けて問題を作り、仮説を立て、実験方法を考え、結果を基に考察するという学習過程を学校で統一して取り組んできたことにより、児童が見通しをもって学習することができるようになった。

#### (2) 課題

- ・前学年までに学習した内容を復習する時間を取り入れ、理科の用語や観察・実験器具の使い方、既習事項の定着を目指す。
- ・結果の検討や考察について話し合う時間を取り入れながら学習を進め、観察・実験の結果を十分に活用する。

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

#### (1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	達成率は約6割である。	達成率は約5割である。	達成率は約5割である。
第5学年	達成率は約6割である。	達成率は約5割である。	達成率は約6割である。
第6学年	達成率は6割を上回っている。	達成率は約6割である。	達成率は7割弱である。

達成率とは、目標値<sup>※1</sup>以上の正答率<sup>※2</sup>だった児童の割合

(目標値以上の児童数÷受験者数×100(%)

例えば、達成率が7割ということは、目標値に達成した児童の割合が7割ということ。全体の児童が100人としたら、目標値に達しているのは70人で残りの30人は、前年度の基礎的な内容の定着に課題があることを示す。

※1 目標値とは、調査において前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される正答率の値

※2 正答率とは、出題数に対する正解した問題数の割合

(2) 分析 (観点別)

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値を下回っている。</li> <li>・植物の育ち方、昆虫のからのつくり、電気の通り道の正答率が低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値を下回っている。</li> <li>・虫眼鏡で集めた光の大きさと温度の温度の関係を分析することやゴムの伸びと車の動く距離の関係を推測することの正答率が低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほとんどの児童が実験や観察に、興味・関心をもって取り組んでいる。</li> </ul>

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・第5学年では、特に「動物のからだのつくりと運動」において、正答率が目標値を下回っている。</li> <li>・第6学年では、「魚のたんじょう」や「植物の花のつくりと実」の正答率が目標値を下回っている。</li> <li>・第6学年では、活用よりも基礎に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第5学年は、「電気のはたらき」や、「物の体積と力」については目標値を大きく下回っている。</li> <li>・第6学年は、「電流のはたらき」や「物のとけ方」の正答率が目標値を下回っている。「天気の変化」については目標値を下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験や観察、話し合いや調べ学習などに対して、おおむね意欲的に取り組んでいるものの、本質的な理解や思考の深まりには不十分さが見られる。</li> </ul>

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察や実験の時間を十分に確保する。一人一人が実験器具に触れて操作を行うことを大切に、実感を伴った理解につなげるとともに、正しい実験の仕方、器具の扱い方を身に付けるようにする。</li> <li>・ICT機器を活用して教材、教具などの使い方を具体的に理解できるようにする。</li> <li>・植物や昆虫などの実物を準備する。実物の準備が難しい場合は、模型などで代用して、それらの特徴を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習問題に対して、生活経験を基に根拠をもって予想や仮説を立て、観察や実験の視点を明確にしてから、活動に取り組むようにする。</li> <li>・身近な事象の共通点や差異点という視点を持ち、観察や実験に取り組むようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な事象を例に出して、問題について児童の興味・関心を引き付けられるようにする。</li> <li>・授業の中で「問題」「予想」「実験」「結果」「考察」などの言葉を用いる。また、授業計画を明確にし、見通しをもった学習ができるようにする。</li> </ul>

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"><li>・実験を行う学習については、実際に器具に触れることで、器具の使い方について適切に理解できるようにする。</li><li>・単元の最後に、単元の内容をタブレット端末やノートを使ってまとめることや、問題演習を行うなどする。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・問題解決のために、必要な実験を話し合う活動を取り入れながら、実験計画を立てる。</li><li>・事象や対象を比較したり、関係づけたりしながら、条件制御を行って調べ、その要因や規則性を推論できるように、学習を進める。</li><li>・結果の検討や考察について自分の言葉で表現できるように、考える時間を十分確保する。</li><li>・実験や観察を行う時には、それに関わる条件に目を向けながら調べられるようにする。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・単元の導入で、既習事項や児童の生活経験と結び付けながら、問題作りを行えるようにする。</li><li>・実験や観察など体験的な学習に加え、動画を活用することや自分で調べる活動を通して、一人一人が学習に主体的に取り組めるようにする。</li></ul>